

4

断絶の時代

(ヒータ・F・トラッカー)

2020. 11. 22

1969年出版

1、地底で フォレトの移動が始まった

1965年 ~ 2025年

60年間の変化

コンピュータの波

2、歴史は循環する、:

しかし、内容はより高次のものとなる

3、目次

(1) 企業家の時代と経済の時代の終り

新技術、新産業が生まれる

(2) グローバル化の時代 / と 経済格差の無効化

世界は グローバルな システム・センターになる

(3) 組織社会の時代 多元化した社会

社会と政治が変わる

(4) 知識経済への移行 仕事の変化

知識が最大の財産となる

△ The AGE OF DISCONTINUITY

by
Peter F. Drucker

5. 出版当時は 単なる未来予測であった
しかし、早くもその2年後には、首相に就任
したばかりのマクドナルド・サッチャーが、民営化の
考えを、本書に基づきものと似たうえで採用し、
17歳以下の教員を民営化し行った。

△. 本書の取り上げなかったことがいくつかある
それは、先進国における人口構造の急変
社会の高齢化、出生率の低下

1920-1970

停滞の時代、過去の成果に依存した時代

大きな社会基盤を作った

1970-2020

断絶の時代、停滞の終り

人間は火銃(オ-ガ)に対して同様、

失業の脅威に対して悪力ハナリ、孤立化し、

分子化していることを痛めた。

なぜ失業が~~あ~~るのかよくわからない、半うこれも

避けることもわからない

戦争と同じように、恐慌も、人間存在に対する

究極の脅威がある

世界大戦と大恐慌

これら二つの破局は、既存社会、信条、価値観を不変のものといふ輸入輸入の日常を翻えらした。

ヨーロッパの大衆は初めて、自分たちの目に映るものは不合理の産物によって支えられていることを知った。

マルクス主義における二律背反

断絶の時代に入れた

1975-2025

あれこれ、この時代を偉大な発展の時代
に描きこもうとする。

技術、産業構造、ガバナンス、マネジメント、

経済政策、経済福祉、経済問題の解決、

断絶の時代に入れた。偉大な19Cの建築物は
土台の土の变化を待たない。

今後、その総仕上げの時代もしたい。

1975~2000 2000~2020年 断絶の時代

技術の成長と発展、利益を占めている

しかし、経済全体を押し上げる能力は十分に成長している

GDPや雇用機会、増加に対する寄与度は小さい。

是れに新たな活力を注入することは難しい。

GAFAMも新たな活力を注入しているのだろうか？

成功体験はいらない。推しては 辻野晃一郎

1. 日本人はもともと推しては得意な人
2. 旧来型の企業に期待するのは大西告げ =
3. 意思決定と行動のスピードを上げる
4. 成功体験は悪い例ばかり

中にも台湾や韓国に発展した国は 推しては、

昔、日本も貿易が盛んで、2000-2007年
にすぎたこと。

5. もともと

$$GAFA + M$$

会社の財産が是れに於ける。

707275-2-

1) 30 9/11 11 2 3/2

即断即决即新环境。

全 城 人 民 公 路

2/19/12

② 2/cの新たな秩序や常識
ネットやクラウドの本質
インターネットの本質は何だ。

11/10/81

4. 氏光年
 姓 名 年 月 日 时 分 秒 分 秒

シリコンバレーの 隆起さ

心の澱を取り除く、チン

岸说

源を捨てるは 本質を捨てる
常識 人の心には二つある

日 変わるのめんどくさい

新法. 37

○ シンパワーあり/流す

2/1/10W 左の表

OKR ALEX
Agent of King

over $\frac{1}{2} \text{ sec}$

宋平

9-14 72-7'

(1) 控制过程

ZNR - 4m

共 2 页

共 2 页
 ④ 大交新同修
 新交新同修

5 Amazon Effect

アマゾン・エフェクト / 浅木康弘 著
2016年7月22日

2020.10.03
2020.9.28

軍事用語

作戦

1. あらゆるものがインターネットに接続され、

情報交換するIoTがもたらすヒューゲデータを、

AIを活用して効果的に分析し、

最適なソリューションを提示する。——— いろいろな形態を生成



2. 今後更に技術的に発展していくであろう

クラウド。その一連の処理を高速かつ安全に
支える

3. 社会の大きな変化。として、

同時進行で進む ITの劇的進化が

何をもたらすか。

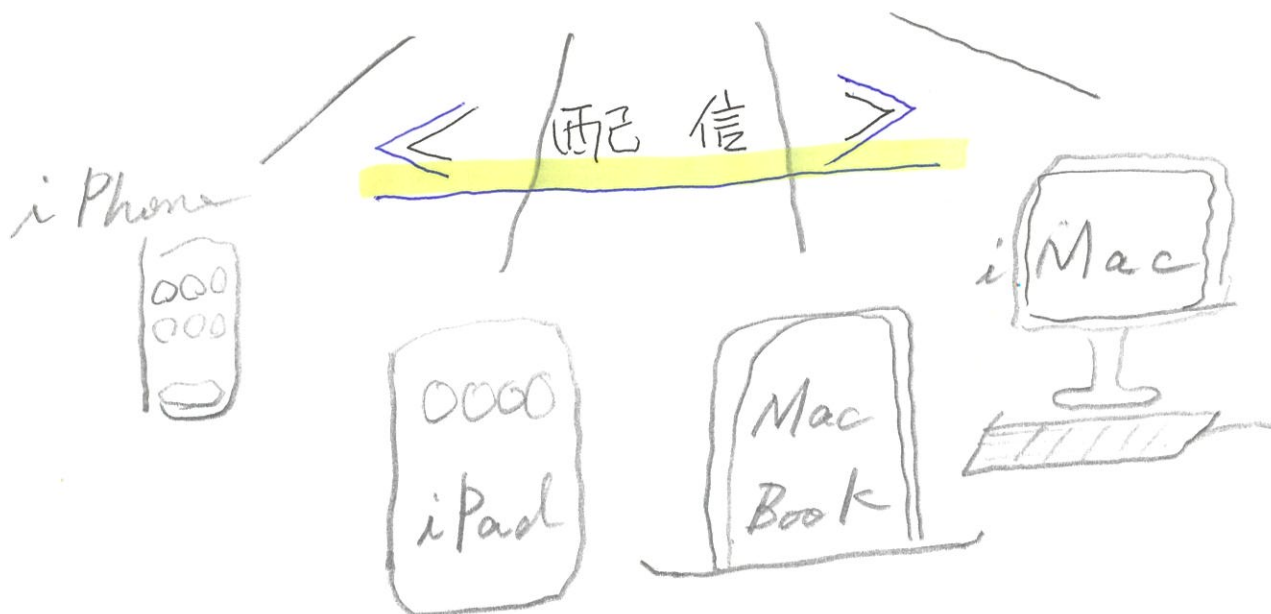
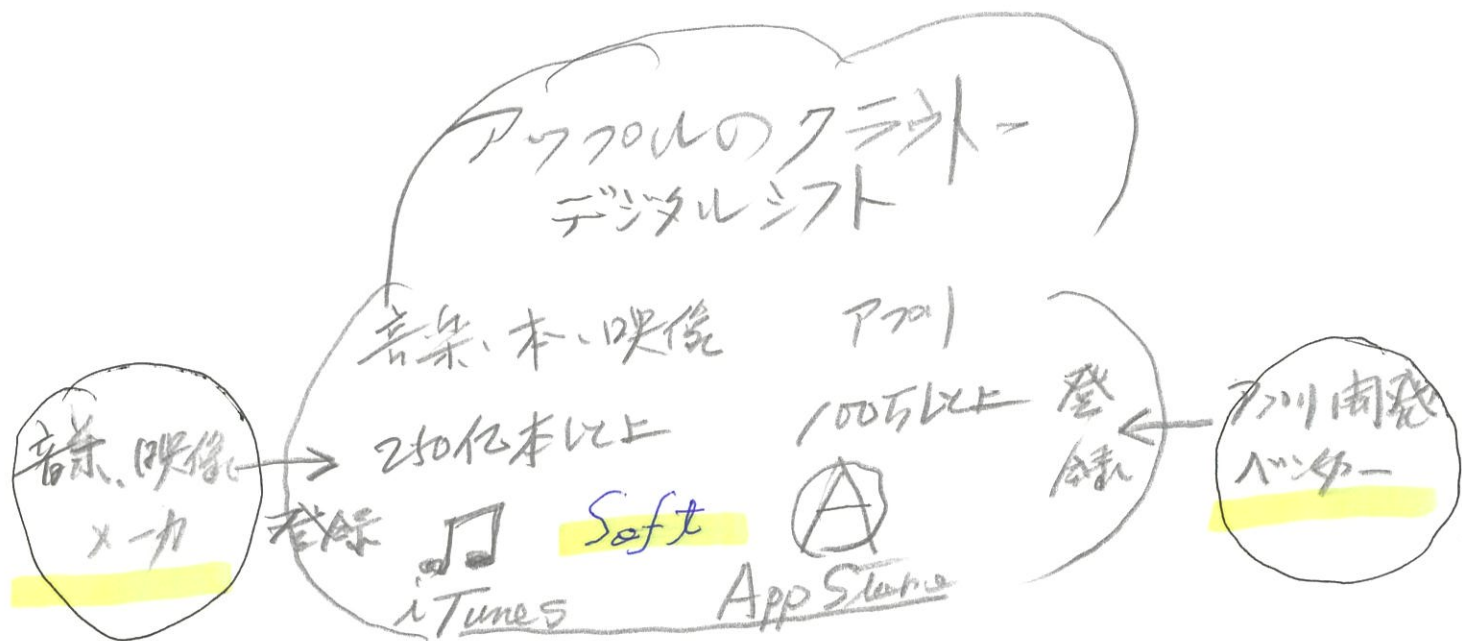
社会と技術が相互に影響を及ぼす



新しいサービス

ITを活用した生産性の向上

革新的な業務改善



デジタル化にシフト

顧客の情報も集めることで、無限のサービスの展開

クラウド上の音楽やアプリの登録の進展

グローバル商品の各バイヤー、X-カの商品登録

イトーヨーカ堂 創設者

約 1 万年 前

500 万人 今の約 10 倍

2000 年

11 億人

帝政時代 申口
キリスト ロマ
前近代 近代

1650 年
(約 350 年前)

5 億人

清の式
シフト

1804 年
(207 年前)

10 億人

ナポレオン戦争

1927 年
84 年前

20 億人

シフト兄弟

1950

30 億人

シフト-1 はどこかに
生かされてくる

2020

76 億人 (+46 億)

2050

100 億人 (+70 億)

富の集中
(≠ 収入)
GAFA-M
申口
227

13 億 2 千万人
国民生活

アレックス

辻野晃一郎さん

2020-11-16

1. 持つことの危険、リスクとリターン

3X-2010+Yニング

インターネット上のプラットフォームの生産設備
に対する巨額の投資



後に苦しい

昔は 自前の生産設備を持つことと 差別化の決め手
になった

今、持つことはリスクである。 ネット経営

2. 持ち出し 勇気と捨てる決断

Pay-VとPay-Uは コングティングを集めること

巨大な3D プラットフォームの出現

3. 巨大プラットフォームの出現

インターネットの本質は数、数を取りに行き
3Dプラットフォームの覇権

6. 72-74の描ける10の事象

- ① 2-4の連点を消す 後の描きやすさ
後から描く事
- ② 一つの点を、とくとく描き出す 描き出す一番
- ③ 正しい 描き方
- ④ シェドウも 描き出す
- ⑤ 描き出す 描き出す。10/17の描き出す
- ⑥ 事を描き出す 描き出す
- ⑦ 描き出す 描き出す
- ⑧ 描き出す 描き出す
- ⑨ 描き出す 描き出す
- ⑩ 描き出す 描き出す

① IaaS Infrastructure as a Service
ハードウェア、ネットワーク、ストレージを提供

② PaaS Platform as a Service
プログラミング環境 (コンパイラ、ライブラリ) を提供する

③ SaaS Software as a Service
アプリケーション ① ② ③ の提供

クラウドサービスとして利用している
ソフトウェアをインターネット経由で クラウド
サービスとして利用する

セールズフォース (Salesforce)

グーグル・アプス (Google Apps)

現在の世界

クラウドへ移行

VUCA (VUCA) ワールド

Volatility 変動性

Uncertainty 不確実性

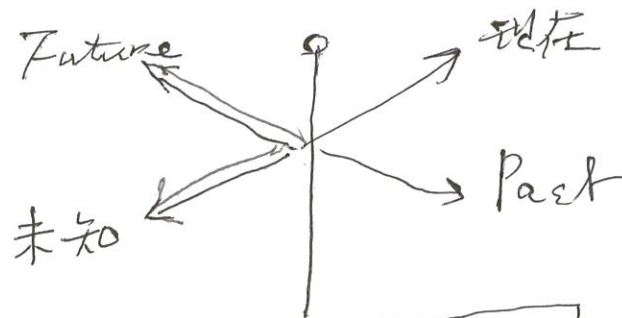
Complexity 複雑性

Ambiguity あいまい性

社会との競争が激化する

デジタルシフト

大きく変化する社会とIT



VUCA World

軍事用語

Volatility 変動性
変化が非常に早い

Complexity 複雑性
複雑化する世界

Uncertainty 不確実性
未来は予測が難しい

Ambiguity あいまい性
何の言葉でもわかるもの

更に進むVUCA World

人口減少、労働力不足
保護主義の台頭
劇的
社会の劇的進化

クラウド技術の発展
AI/IoTによる仕事の変化

デジタルシフト

デジタルによる顧客一人ひとりの意識や行動、システム把握、顧客に合わせた
Data Driven
マーケティングの意味

いまの競争のあり方

発想の変化 (両方言える)

(いま)を重視

昔

いま

古い

新しい

拡大

リアル = 相対的

近代的

モノ

~~事典~~ 発想

合理的



東洋性、軽快

デコーリーの応用

索引

品揃への新しさ

制約をゆるめる

均所という制約



相対発想は



~~事典~~ 発想は

全体を俯瞰する

取引先依存の

経験発想

発想

静的 消極的 後回

動的 積極的 前回

社会の変化

マーケット発想の品揃え

マーケット発想の品揃え



モノとモノを区別する発想

売り場面積に

縛られた品揃え

発想のあり方は
改められなければならない

戦争は避けられなかったのか (真珠湾から沖縄戦)

2020.11.24
2020.11.16

第二次世界大戦で日本が負けた原因は何であったのか。

① 避けられなかったのか？
戦後の大戦と、北朝鮮の戦い

「失敗の本質」(1984.5 ダイヤモンド社刊 野中郁次郎外著)を読んだが、それは、負けた要因の理論化であり、過去の成功体験への根拠のない依存への反省であった。日本陸軍は、奇襲と白兵戦による銃剣第一主義(米軍は火力重視の合理的な戦い)。海軍は、戦艦武蔵、大和に代表される大艦巨砲主義(米軍は空母と航空機による機動戦)。精神主義と米軍の豊富な物量への挑戦であり、既存の成功体験と新しい考え方との対決であったという。

しかし、この考えは正しくない。敗戦(失敗)の本質は、戦闘ではなく別のところにあったのではないかと感じた。

② 原因分析では、
その価値は高くない
今のGAFのスコア

(陸軍の戦争認識)

1941年初め九段の偕行社における秋丸機関の報告会における議論では、「日本の戦力は、日中戦争の倍の戦争に耐えられるか」という問、

- (1) 人口の問題 兵力をどれだけ出せるか (有沢)
- (2) 生産力の問題 (中山)
- (3) 船と油の問題 資源の確保の問題 (武林)

③ 陸軍、日本有識者の
戦争認識

結論は、倍の戦争は出来ないという冷静なものであった。

これ以上続けると日本の生産力はなくなり、生活力さえなくなるというものであった。(それなら開戦を回避又は延期すべきであった)

戦争回避

しかし、結局 11 月 26 日にハル・ノートが提示され、日米交渉は頓挫し、残された唯一の選択肢であるとして「開戦」が選ばれることになる。

1946年(昭和 21 年)に昭和天皇が側近に語った記録で、「実に石油の輸入禁止は日本を窮地に追込んだものである。かくなった以上は、万一の僥倖に期しても、戦った方が良いという考えが決定的になったのは自然の勢いと云わねばならぬ...」と言われたとのことであった。

④ 敗戦必至
天皇の言葉

結局のところ、日本は「戦争の終末」の見通しなく、そしてそれゆえに戦争を始めたのである。「開戦論を抑える」ためには、「3年後でもアメリカと勝負ができる国力と戦力を日本が維持できるプラン」を数字によって説得力を持たせて明示し、時間を稼ぎ、その間に国際環境が変化するのを待つことが必要であった。そしてそのチャンスは本当に無かったのか。

チャンスはあったと私は考える。

⑤ 開戦論を抑え
られなかったのか
可成

(日米和平交渉)

第二次世界大戦直前の1941年2月から12月8日の真珠湾攻撃までの期間、日米国交調整を目的として行われた外交交渉。日米関係の悪化を防ぐため、41年2月第二次近衛内閣は野村吉三郎を駐米大使に任命し、日米交渉を開始した。4月C.ハル国務長官と野村大使の間で、民間外交の結晶としての「日米了解案」が取上げられたが、松岡洋右外相は異議を唱え、強硬論に固執し、また三国同盟問題、中国撤兵問題などをめぐる双方の見解の差は大きく、交渉は難航した。6月独ソ開戦ののち日米交渉の妥結が急務となり、内閣はいったん総辞職して、日米交渉打切りを唱える松岡外相に代えて豊田貞次郎海軍大將を外相とする第三次近衛内閣が成立した。しかし7月下旬統帥部の主張によりインドシナ進駐が行われ、アメリカ、イギリスはこれに対抗して日本資産の凍結、石油の全面的禁輸を断行した。8月近衛首相は、F.ルーズベルト大統領との直接会談を求めたが実現せず、10月上旬にはインドシナ、中国からの撤兵受諾により交渉成立の見込みありとの主張が生まれたが、東条英機陸将は反対を続けた。このため近衛内閣は総辞職し、東条内閣がこれに代った。東条内閣は11月5日の御前会議で最後の対米交渉を甲、乙両案で進めることにし、11月中に交渉不成立の場合には12月初めに武力を発動する方針を決定した。11月26日アメリカは日本の満州国否認などを要求した「ハル・ノート」を手交し、日本は12月1日の御前会議で対米、英、オランダ開戦を決定し、日米交渉は決裂するにいたった。(ブリタニカ)

松岡外相や東条陸将などの戦争主義者の主張を、日米の戦力差(陸軍では米国20、日本1とも言われた)を見据え、国際連盟にとどまり、国際連盟にとどまり、独伊との三国同盟に無益な拘束を受けることなく、将来の国益を議論すべきであった。開戦の翌年の1942年8月には、スターリングラードの争奪戦は第二次世界大戦中最大の激戦で1943年2月にはドイツ軍33万人が全滅した。欧州では戦況が変化し、第二次大戦後の米ソ二大勢力の対立も見抜けた筈である。

(ハル・ノート)

1941年11月26日、日米交渉で米国国務長官ハルが日本の野村、来栖両大使に提示したアメリカ側の対日提案。

- (1)日本軍の中国・インドシナからの完全な撤退
- (2)中華民国国民政府以外の中国における政府・政権の否認
- (3)日独伊三国同盟の廃棄

などを要求している日本側は、アメリカの最後通牒とみなし、太平洋戦争に突入したが早計であった。

ハル・ノートの合理的な受諾こそ日本のチャンスであった。

1932.10 リットン調査団 (満州事変の処理に對して 国連に提出)

①日本の満洲軍事行動を認めず

②満洲国は傀儡国家である

1933.2. 国連総会で決議

松岡外相は退場、これより日本は孤立化の道を進む。

米、日米通商航海条約の破棄通告 (1939.7.26)

1892年ワシントン条約締結以来30年に渡り、日米友好の絆となっていた。しかし、日本の中国侵略、対ソ戦争などにより、アメリカの軍需品の禁輸により日本に致命的な打撃を与えようとするものであり、板垣陸将は、直ちに三国同盟を締結すべきとしたが、石渡蔵相が、米内海相に「三国同盟を結ぶ以上、日独伊三国間、英米仏ソの四国を相手に競争する機会もあるが、海軍に勝算はあるか？」と問った。米内はあきと、「勝算はなし。日本の海軍は、英米を相手に競争するには遠慮を要している、独伊も同盟には加わらない」と答えた。これ、三国同盟は打ち切られた。

独、ソ不可侵条約 (1939.8.23)

17年ハイン事件の直後の日本は、(1939.5~9)
独のソ連に対するこの条約はシロクであった。
ソ連を対象とする日独防共協定の交渉中(延70回、200回)のこのヒトラーの決定は、青天の霹靂であった。日独伊三国同盟は中絶となった。

第二次世界大戦勃発 (1939.9.3 ~ 1945.8.15)

1939.9.1 独はポーランドに侵攻、9.3 英仏は独に宣戦
ソ連もポーランドに侵攻、1939.11 ソ連はポーランドに宣戦

日独伊三国同盟 (1940.9.27)

(ヒトラーの快速進撃)

1940.5.1 ヒトラーは、西部戦線に攻め命を下した。

ドイツ国防軍の電撃作戦は、世界戦史に比ぶる鮮やかであった。

5.14 オランダ降伏、5.17 フランス陥落、英仏海峡から撤退。

6.14 北アフリカを無血占領、6.22 フランス降服……

この世界情勢の激変が、前年より更に急激となった三国同盟を再燃させた。

この時、仏蘭西の敗北に伴うアジアの資源地帯からの撤退が、

陸海軍の南進戦略として一戦一退のチャンスとする者が多かった。

良鉄派の吉田海相は、英を全面格助しては米と対敵の国ほに
なり、将来の日本戦を招くと反対派の大勢には抗しきれなかった。

(松岡洋右外相の構想)

独の前年^①(1939.9)独ソ不可侵条約と今回の三国同盟(1940.9)

を結合し、日独伊ソの四国協商を可能とせしむる旨を主張。

東京裁判、東条英機の証言

「三月同盟、ハルビンと真珠湾攻撃への道」

極東国際軍事裁判の証言 2017.8 発行

5.22.12.21 10:25

日独伊三月同盟は世界に公表された

私は、当時の情報上 警戒であった。

日独伊連盟促進

日米関係の一段の悪化

これにより世界は二分。

独への接近

為らば世界を嫌むもの。

又平菊治郎。(外克余録)

松岡 → 日独伊 + ソ連 → 米英と対立
1941.4.10

松岡の

東条 (木戸から東条に電) 1941.6.22

新造

独がソ連に侵攻



失敗の本質 (敗戦の原因の理論化)

10 月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2020 年 10 月 1 日(木)

第二次世界大戦で日本が負けた原因は何であったのか。

「失敗の本質」(1984.5 ダイヤモンド社刊 野中郁次郎外著)を読ませていただいているが、それは、**負けた要因の理論化**であり、**過去の成功体験への根拠のない依存**への反省であった。日本陸軍は、**奇襲と白兵戦**による**銃剣第一主義**(米軍は火力重視の合理的な戦い)。海軍は、戦艦大和に代表される**大艦巨砲主義**(米軍は空母と航空機による機動戦)。**精神主義**によって、**米軍の豊富な物量への挑戦**であり、既存の知識と新しい考え方との対決であった。

大戦の始まる前に起きた**ノモンハン事件**(1939.5～9)は、日本の関東軍とソ連・モンゴル軍の交戦であり、**日本軍は大敗した**。第一次大戦における本格的近代戦の体験を持たない日本軍は、**物量戦の意味**を理解していなかった。

日本軍は、火砲と弾薬の不足に苦しみ、目標の的確な把握も欠いていた。

結局、攻撃部隊は**ソ連軍師団の大兵力による猛射**をあび、第 23 師団は壊滅の大敗を喫し、多数の第一戦部隊の連隊長クラスが**戦死**、または**自決**した。生残ることを怯懦とみなし、**高価な体験**をその後に生かせなかった。

日本軍を圧倒したソ連司令官**ジューコフ元師**は、スターリンの問に対して、日本軍の下士官兵は**勇敢**、青年将校は**狂信的な頑強さ**で戦う、しかし、**高級将校は無能(大局観か)**であると評した。

連戦連勝していた海軍が**初の敗北**を喫したのは**ミッドウェー海戦**(1942.6)であり、以後海軍は勝てなくなった。

日米を比較すると、**真珠湾攻撃の後戦艦、空母等で優位にあった日本海軍**は、この海戦において、米海軍を圧倒するチャンスであった。しかし、**連合艦隊司令官(戦略)**、**作戦計画の遂行レベル(戦術)**の用兵レベルにおいて米海軍に劣り戦果をあげられなかった。

ガダルカナル作戦(1942.8～1943.2)は、開戦後初めての陸軍の敗戦であり、**陸戦のターニングポイント**となった。この敗戦も日本軍の**戦略的グランドデザインの欠如**が目立った。

作戦司令部では、**兵站無視、情報力軽視、科学的思考軽視**の風潮があり、第一線からの個人の経験が戦略、戦術の反省と**戦略、戦術の再構築**に帰納的に反映されるシステムが欠落していた。

インパール作戦は、不成功の場合の作戦を欠いた成算なき**鴨越戦法**であり**源義経**も実行しなかったであろう。その後、**沖縄戦、レイテ沖海戦**を経て日本は無条件降伏となった。

太平洋戦争(日本軍の惨憺たる失敗)

(1941.12.8~1945.8.15)

① ノモンハン事件
(1939.7)

(日本軍戦死者1万8千人、
戦没、戦死1万8500人)

重大な危機に際しての日本の組織一般の危機意識の欠如と問題意識の欠如。

作戦の失敗例の予感。中央と現地とのコミュニケーションの不足、独善性と過度の精神主義。失敗の学習の不足。

② 真珠湾攻撃
(1941.12)

攻撃部隊は11.26エトロフを出発、攻撃は航空機と特殊な潜航艇で実施。12月7日出航中の航空母艦を除き、東太平洋艦隊を全滅。海上兵力に対する航空兵力の優位。日本の最後通牒は、攻撃後にアメリカ大使に手交。米国は12月8日対日宣戦布告。(2000人以上の米将兵が戦死)

③ ミッドウェー海戦
(1942.6)

陸戦のターニングポイント。不測の事態への対応。ハワイ諸島西端の2小島。日本軍は防衛ラインの拡張と米機動部隊への決戦を目的として、連合艦隊の総力をあげて出撃。攻撃部隊の発進準備中に米急降下爆撃機の急襲、四主力空母、主巡洋艦一隻が沈没、航空機300機と多数の熟練パイロットを失う。米軍の損害は空母一隻沈没、航空機150機喪失。この結果、諸戦における日本軍の優位は崩壊。

④ ガダルカナル撤退
(1943.2)

(日本軍派遣部隊の2/3、
戦死者2万4千人)

陸戦のターニングポイント。情報の貧困や兵力の逐次投入。米軍の水撃両用作戦。水撃両用作戦の未開発。日本軍の作戦失敗。物資不足、マラリア感染、海戦敗北、航空隊の損耗大。連合軍は総反抗の転機。雨期の到来と英印軍の反撃で作戦失敗。しなくてもよい作戦の敢行。

⑤ インパール作戦
(1944.3)

(日本軍死傷者7万2千人)
(英印軍1万7千人)

この作戦は日本軍の作戦指導の硬直性を示し、ビルマ防衛計画は崩壊した。

⑥ レイテ沖海戦
(1944.10)

(日本軍死者1万人)

作戦失敗。作戦目的の曖昧さ、参加艦隊の任務把握の不充分、統一的指揮の不存在。作戦失敗。米軍の損害は小型空母等6隻。日本軍側は、武蔵等戦艦3隻、空母4隻等が沈没。連合艦隊は事実上壊滅。

⑦ 沖縄戦
(1945.4)

日本軍将兵6万5908人、
県出身軍人軍属2万8228人、
一般県民9万4000人死亡

作戦失敗。作戦目的の曖昧さ。大本営と現地軍の意思の不統一。日本的組織の全体的目的課題把握の不足。米軍は本土進攻をスムーズに運ぶために物量を投入、日本軍は本土進攻を1日でも長引かせるための出血作戦。(米軍将兵1万2281人死亡)

⑧ 原爆の投下

大島、長崎の死者210,000人、負傷者158,000人

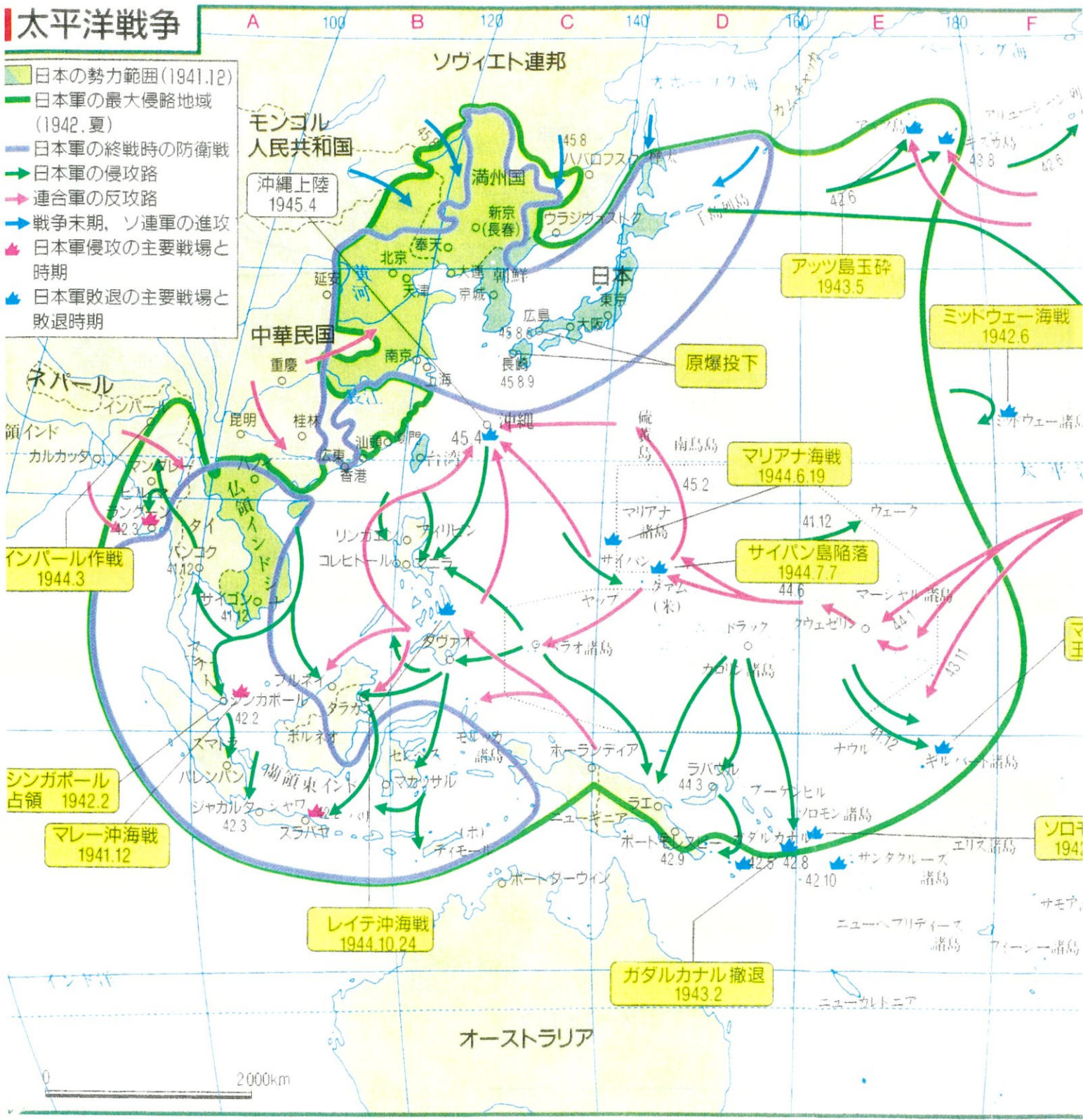
⑨ 太平洋戦争の戦没者

310万人、軍人軍属230万人、外地戦没30万人、内地50万人(内餓死140万人)

経済力の差のもたらしたもの

太平洋戦争

- 日本の勢力範囲(1941.12)
- 日本軍の最大侵略地域(1942.夏)
- 日本軍の終戦時の防衛戦
- 日本軍の侵攻路
- 連合軍の反攻路
- 戦争末期、ソ連軍の進攻
- 日本軍侵攻の主要戦場と時期
- 日本軍敗退の主要戦場と敗退時期



トインビーの厳粛な一言

1. 1929 年 (満州問題) の厳粛な一言

1931 年満州事変の 2 年前の秋に京都で開かれた第三回太平洋問題調査会国際会議で来日したトインビーは、日本は一つの歴史的な運命的岐路に立っていると言った。

「満州問題に対する日本の責任は大きい、それは日本の運命を決する」という厳粛な一言であった。その言葉は、日本にして一步誤まらんか、そこをみまうものはローマ帝国と戦ったカルタゴの運命であるという洞察があった。

歴史的、運命的な岐路に立っている日本の責任は大きく、日本の運命を決する。

日本は単に中国と戦うのではなく、アメリカやソ連のような、20 世紀の産業的ローマ帝国と戦うことになるのであるという、世界文明の視野に立った歴史の教訓がその念頭に去来していたのである。

それ以後の歴史の進展は、トインビーの予言した方向に進む。

2. 歴史の進展

彼の歴史の理解尺度は、日本も、英国も、アメリカも、ソ連も孤立的には存在していなかった。

彼が見ていたものは、西欧文明であり、東洋文明であり、そしてその接触交渉であり、その帰結であった。

その尺度は、ギリシア・ローマ文明、否すべての既存文明の生起興亡の理論であった。

学び取った教訓は、その民族だけでなく、同胞である全人類のために学び取れたのである。原子力時代においては、人類は自分たちを亡ぼすまいとすれば、一つの家族となって生活することを学び取らねばならない。これこそ、日本の学び取り、そして他に教え伝えることのできる真実である。

自分の生きている時代を、高みから眺めるのは意外に難しい。ある時代を俯瞰できるのは、その時代を終わった後の人の特権である。その特権は、歴史を読むことによって行使される。

渦中にいる人々は、得てして見通しがきかない。

3. 太平洋戦争

柳条溝事件を契機とする満州事変の勃発、国際連盟からの脱退、日華事変への拡大、太平洋戦争への発展、そして、最後に原子爆弾とソ連の参戦によって、ポツダム宣言の受諾、終戦となり、占領下におかれることとなった。

そのときになってはじめて、16年前、われわれ日本人に対して、自らの過誤によって不幸な運命を招かないように、警告を与えてくれたトインビーのことが思い出され、忘れがたいものとなった。

1933年には、満州国問題を巡り国際連盟から脱退、日本は孤立を深め、ナチスドイツとの同盟と真珠湾への道に追い込まれていく。

日英同盟を名目に第一次大戦に参戦、1915年の対華 21 カ条の要求、1917年のロシア革命に対するシベリア出兵...植民地帝国への道を進み、アジアの自主自尊に資する日本の選択を構想できず、欧米追従路線と進む中で、列強の番犬的な身分を、いつか忘れる行動をとったのが誤りであった。

経済学者たちの日米開戦

(秋丸機関「幻の報告書」の謎を解く)

牧野邦昭著 2018.7.30 新潮社

1. 有沢宏已ら一流の経済学者を擁する陸軍の頭脳集団「秋丸機関」が日米の経済抗戦力の巨大な格差を指摘する報告書を作成したにも関わらず、なぜ、無謀な対米開戦を防げなかったのか。
2. 1941 年、日本はなぜ勝ち目のないアメリカとの戦争を始めたのだろうか。戦後の視点からすれば、「対米開戦」は非合理の極致としか見えない。
3. 当時のエリートである日本の指導者たち(特に軍人)が格別に「愚か」、「非合理的」であったわけではない。
4. 「非合理的」、「情報軽視」といったイメージのある日本軍隊であるが、実際には、開戦前に多くの一流の経済学者を「秋丸機関」に結集して、日本、アメリカ、イギリス、ドイツなど主要国の経済抗戦力の調査を行っていた。
5. 報告書には戦勝の秘策が示されていたのであろうか。
報告は、正確に戦争の困難さを指摘していたものの、全く別な形で解釈されて「開戦」の判断資料になったのか。
6. 何故、日本の指導者たちは、正確な資料に接する機会があったのに、米、英と戦争することを選んでしまったのか。
7. 1939.7 東亜経済懇談会において秋山次朗は、今日の戦争は武力戦ではなく、経済的に永く耐える方策が必要である旨、話している。
即ち、国力の判定基準とは“経済”であるとしている。
どの程度までに自給自足が出来ることが国力の判定基準としている。
8. また、世界は、「アメリカブロック」、「ソ連ブロック」、「英帝国ブロック」、「ドイツ・イタリアを中心とするブロック」、そしてこれから建設しなければならない「東亜ブロック」の5大ブロックを区分している。
9. そして、東亜経済ブロックにその可能性をあり(満州の石油資源)としている。

10. 1939－1941 ソ連は、直接に戦争に参加しない一方で、「英米対独戦」を長期化させる作戦をとっている
 (1) 蒋介石政権を援助して、「日中戦」の長期化を図る
 (2) その中で自国の強化を図る

11. 米国が仮想敵国として研究上重要である

12. 東亜は、英米依存の退却により、東亜共栄圏の確立を図る

13. 英国の戦略的価値の重要性

14. 日本に関する資料(日本班の報告)

- (1) 日本経済の脆弱性
 (2) 仮想敵国である英米への経済的依存
 (3) 高い貿易の対外依存度(特に米国)
 満支ブロック 23%強
 第 3 国 77%弱
 (うち 81%強が英米ブロック)
 (特に米ブロックから 52%強)
 (4) これは経済学者だけでなく陸軍自身が痛感していた問題であり、陸軍では何度も開戦を依頼したシミュレーションを行っている。
 1940 年陸軍からの進退により、企画院が行った調査では、英米とソ連に宣戦を布告し、南方を占領した場合に経済国力の推移予想を算定していたが、その結果は、
 ・鋼材生産額は 2/3 に減少し、
 ・民需はほとんどの重要物質が 5 割以下に切下げというような悲惨なものだった

15. 1941 年初め、九段の偕行社における秋丸期間の報告会

「日本の戦力は、日中戦争の倍の戦争に耐えられるか」

- | | | |
|------------|-------------|-------|
| (1) 人口の問題 | 兵力をどれだけ出せるか | (有 沢) |
| (2) 生産力の問題 | | (中 山) |
| (3) 船と油の問題 | 資源の確保の問題 | (武 村) |

結論は、倍の戦争は出来ない。

これ以上続けると日本の生産力はなくなり、生活力さえなくなる。

当時、日米の経済格差は 1 : 20 と言われていた。

16. 秋丸機関の中間報告

国防経済力は、一国の潜在的戦争力であり、中でも経済力が最も重要である。

第一次大戦の分析によりナチスにおいて、戦争の教訓として新たな視点で研究、まとめられた。

戦線を支える支柱とは何か

武力を幾度も再建する広汎な地盤

国民生活の基盤としての広報活動



戦争とは経済力の抗争(国家総力戦)



国 民

一国の国民経済は、既に平時において国防力として培養され、国防力としての条件を備え、国防力としての訓練を施さなければならぬ

第一、一国の国防経済力の強さは、之を構成する諸力の最弱点に従って定まる

第二、一国の国防経済力は、戦争勃発に際して即時対応し得る経済力が大なればなるほど、以後の主要経済力が動員されるまでの期間が短い

第三、一国の国防経済力の情弱は、その国の経済力が、戦争力として戦時に如何なる曲線を辿るかによって左右される。

一国の経済力を強化するためには、最弱点を補強し、経済動員の準備計画を整え、経済力の培養、育成、節約をしなければならない。

このような「国防経済」は、戦争が始まると、今度は消耗の経済である。即ち、戦争経済となる。

このように、経済と戦争が緊密化した以上、敵の戦争経済を崩壊させることが敵の(抵抗力)を壊滅させることになる。

17. 先の見通しが立たなかったからこそ始まった戦争

- (1) 結局ハル・ノートが(野村、来栖両大使に手交された)11月26日に提示され、日米交渉は頓挫し、残された唯一の選択肢である「開戦」が選ばれた。
 - ① 日本軍の中国、インドシナからの完全撤退
 - ② 重慶(蒋介石政権)以外の政権を認めないこと
 - ③ 極めて非妥協的な要求
 - ④ 実質的に日独伊三国同盟を廃棄すること
- (2) ハル・ノートを最後通牒とみなし、12月1日の御前会議は開戦を決定した。
- (3) 開戦を回避し、「臥薪嘗胆」という選択肢は日本の国力低下を確定させてしまうために選ばれなかった。

(フランコ体制下のスペイン)

スペインを支配していたファシストのフランコは、第二次世界大戦において、1940年ヒトラーからスペインの参戦を求められたが、フランコは言を左右にして参戦を拒み、中立国ではあるものの親枢軸国側に立ち、非交戦国家として振る舞った。そして、枢軸国側の退勢が1942年には明らかになり、見切る方針を固めた。(ウィキペディア)

スペインのフランコのように、日本も独伊の枢軸国側に一線を返し、1942年以後を待ち、米ソの対立まで待てなかったのだろうか。

回帰分析

2つの回帰分析

2020.11.24
NO.
2017.08.28
DATE
2017.05.29

(1) 重回帰分析

$X_1 \sim X_n$
複数の要因 $\rightarrow$ 単一の結果 Y

金額や来店回数 といった 変数からの

数値で示される場合

$$Y = a_1 X_1 + a_2 X_2 + \dots + a_n X_n + b$$

(2) ロジスティック回帰

自社の商品の利用

0から1

質的分析

$$P(x) = P(\text{発生} | x_1, x_2, \dots, x_n) = \frac{1}{1 + \exp(-z)} = \frac{1}{1 + e^{-z}}$$

説明変数から得られる z は $-\infty$ から $+\infty$ と自由な範囲を取り得ることを示す。

それにより説明される結果は 0 から 1 の範囲をとる。

過去のことをうまく説明し、

将来のことを予測することを目指すのだ。

ネズミ算とロジスティック曲線

孤島に数頭のネズミが放たれたとする。

(1) 生まれるネズミは、現存するネズミの数に比例する

ネズミの増加率 $\frac{dy}{dx}$ は、現存するネズミの数 y に比例する

(2) ネズミが増えると餌が不足し、強い抑制力が働く

その抑制力は、 y が大きくなるほど加速的に強くなり、ネズミは全滅の危険がある
抑制力は、 y の2乗に比例する

(1) 増加率 $\frac{dy}{dx}$ フォース効果

(2) 抑制力 y^2 マイナス効果

(3) (1), (2) の算式は、

$$(3) \frac{dy}{dx} = ay - \frac{a}{b} y^2 \text{ と表わされる}$$

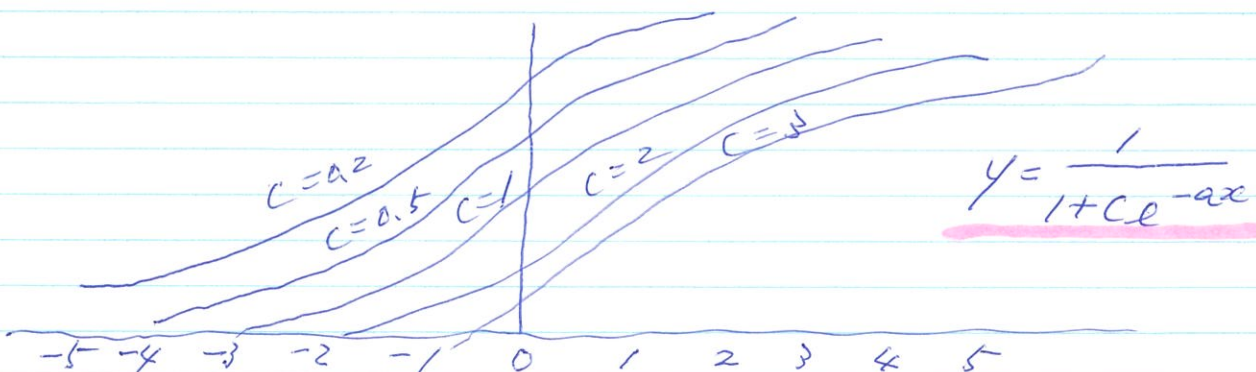
↓

(4) の微分方程式を解くと、

$$(4) \text{ロジスティック曲線 } y = \frac{1}{1 + Ce^{-ax}} \quad (a, b, c > 0)$$

a 増加率
 y ネズミの数

b
 $\frac{dy}{dx}$ = ネズミの増加率



孤島の動物の増殖
有限消費材の蓄積率

5. トレント解析から予測

(1) トレント解析によって過去の傾向が判明したら、

次にその傾向を 未来に延長する



真の目的

トレント解析は手段にすぎない

(2) 直線回归

$$y = ax + b$$

孤島のネズミの数は、①現存するネズミの数に比例する面と

②食料不足に対応した抑制力の効果によって決まる。

①増加率 $\frac{dy}{dx}$ は y に比例する $\frac{dy}{dx} = ay$

②抑制力 y の2乗に比例する $\frac{dy}{dx} = -\frac{a}{b}y^2$

$$\text{故に } \frac{dy}{dx} (\text{増加率}) = ay - \frac{a}{b}y^2 \quad \text{--- (2)}$$

y の x の関数として解くと

$$y = \frac{b}{1 + ce^{-ax}} \quad \text{--- (3)}$$

孤島のネズミの増殖、耐久消費財の普及率、流行商品の累計販売数などの現象

(5) 成長の途中キーワードを (4) ロジスティック曲線で回归し、
将来の成長過程を予測するには、

式(4)の両辺の逆数をとると

$$\frac{1}{y} = \frac{1 + Ce^{-ax}}{b} = \frac{1}{b} + \frac{C}{b}e^{-ax} \quad \text{となる}$$

$$\text{ここで } \frac{1}{y} = Y, \quad \frac{1}{b} = B, \quad \frac{C}{b} = -C, \quad e^{-ax} = A$$

とすると

$$Y = B - CA^x \quad \text{となる。}$$

(2116 付録(3)の場合)

(5)' ロジスティック曲線の式' そのことから、

$$\frac{dy}{dx} = ay - \frac{a}{b}y^2 \quad (5)$$

一定の期間内の変化、つまり Δx という時間内に、 y がどう変化
したかを求めるために、 dx の代わりに Δx を、 dy の代わりに Δy を使い

$$\frac{\Delta y}{\Delta x} \doteq ay - \frac{a}{b}y^2$$

ここで Δx を 1 とするとともに、両辺を y で割ると、

$$(5)' \frac{\Delta y}{y} = a - \frac{a}{b}y \quad \text{となる。}$$

そこで、 $\frac{\Delta y}{y}$ という値は、 y の一次関数となり、式(5)' は直線で
表わされる。

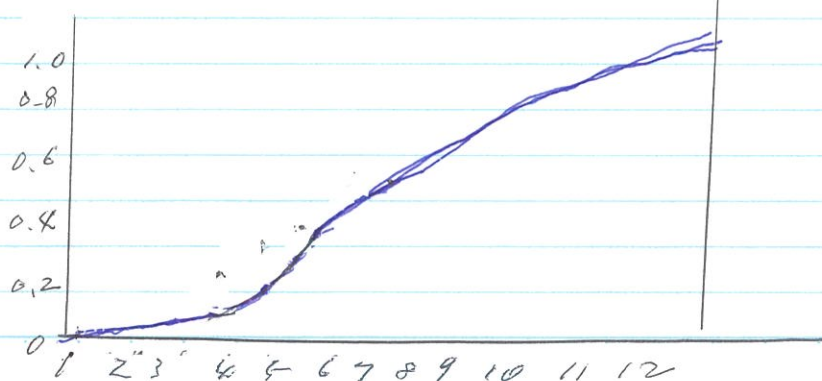
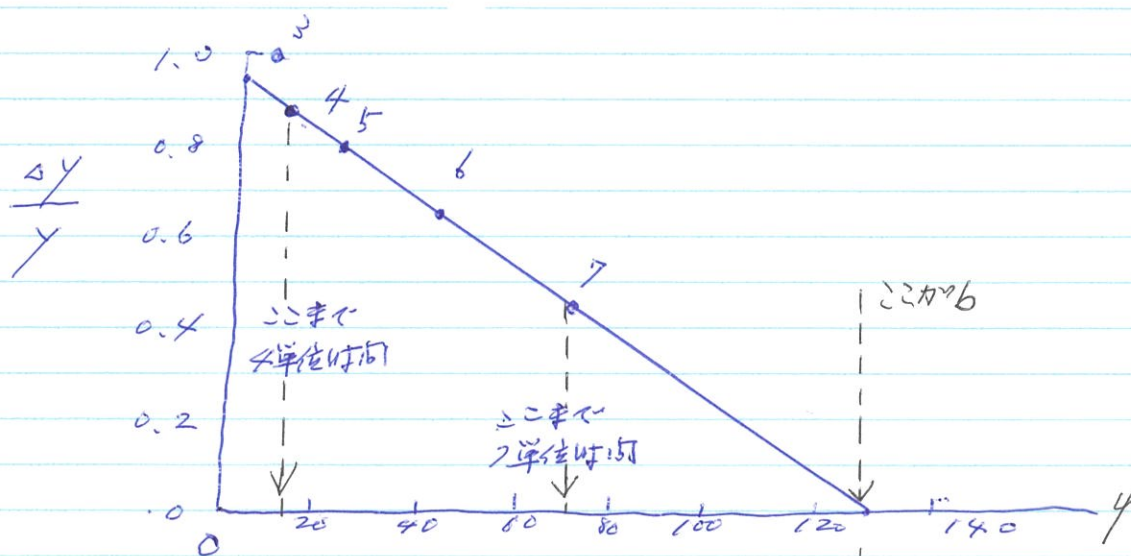
すなわち、ロジスティック曲線の回归を直線回归式を用いる。

(6) ある製品の売上は次のようであったとする (1~7月)

売上の推移が、ロジスティック曲線に近似できるとして、今後の売上を予測する

$$y/y_{\max} = \frac{1}{1 - e^{-ax}}$$

年	累積売上 Σx	売上 Δy	$\Delta y / y$	対称年 (増減率)
1	0.01 0	2	0.00	ax -4.53
2	0.02 2	4	2.00	100%
3	0.05 6	6	1.00	50
4	0.096 12	10	0.83	66
5	0.19 22	17	0.57	70
6	0.33 39	25	0.44	77
7	0.512 64	29	0.45	16
8	0.69 70	22		0.81
9	0.83 80			1.58
10	0.91 100			2.34
11	0.96 110			3.10
12	0.98 120			3.87



回リ目を折に入れても

ロジスティック曲線 (案外)

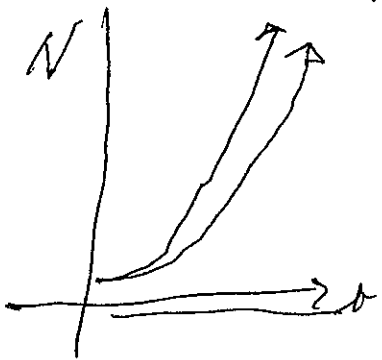
2020.03.29 42-の5
元入庫の177

人口増加や経済成長を(近似)として
説明するものの断片

$A(1+r)^t$ 対 A 対 $\frac{dA}{dt} = rA$
 マルサスモデル $N \times k$

個体数を N , 比例定数を k とする
 個体数 N の増加率は $\frac{dN}{dt} = kN$ (定数)

$\frac{dN}{dt} = kN$
 $\frac{1}{N} dN = k dt$
 $\int \frac{1}{N} dN = \int k dt$
 $\ln N = kt + C$
 $N = e^{kt+C}$



人口爆発?

N の増加に伴って環境が

悪化するのを防ぐため

$$\frac{dN}{dt} = k_0 \frac{N}{M} N$$

① 対して

$$\frac{dN}{dt} = k_0 \left(1 - \frac{N}{M}\right) N$$

$$\frac{N}{M} \leq n \leq 1$$

M は人口許容数

↓
個体数と最大許容数

N が M に近づくとき $\frac{dN}{dt} \rightarrow 0$ になる

N が M に近づくとき

$$\frac{dN}{dt} = k_0 \left(1 - \frac{N}{M}\right) \frac{N}{M}$$

M は人口許容数

$$\frac{d}{dt} \left(\frac{N}{M} \right) = k_0 \left(1 - \frac{N}{M}\right) \frac{N}{M}$$

$$\frac{d}{dt} n = k_0 (1 - n) n$$

$$\frac{dn}{(1+n)n} = k_0 dt$$

$$\int \frac{dn}{(1-n)^2} = k_0 \int dt \quad \text{? or } \ln$$

$$\ln n - \ln(1-n) = k_0 t + C_1 \quad \frac{1}{n} = b$$

$$\ln\left(\frac{n}{1-n}\right) = k_0 t = C_1$$

$$\frac{n}{1-n} = e^{k_0 t + C_1} = \underline{C_2 e^{k_0 t}}$$

Y軸

~~Ex~~

$$\frac{1-n}{n} = e \frac{1}{C_2} e^{-k_0 t}$$

$$\frac{1}{n} - 1 = C_0 e^{-k_0 t}$$

$$n = \frac{1}{1 + C_0 e^{-k_0 t}}$$

ヒステリシス曲線

12/13/18

W

$k_0 = 1$ とおく (k_0 総電圧に変わっていく)

$$n = \frac{1}{1 + C_3 e^{-t}}$$

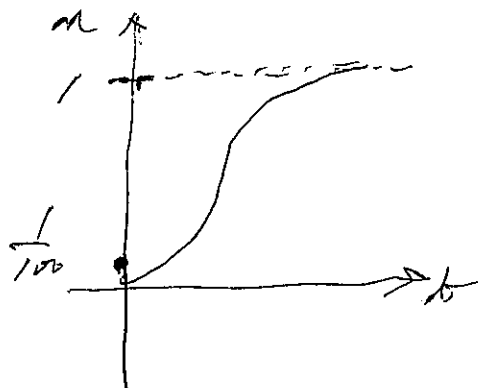
$$n = \frac{N}{N_1} \quad (0 < n < 1)$$

初期条件 $n(0) = \frac{1}{100}$

$$\frac{1}{100} = \frac{1}{1 + C_3 e^0} = \frac{1}{1 + C_3}$$

$$C_3 = 99$$

$$n = \frac{1}{1 + 99 e^{-t}}$$



微分方程式の中で
 n の値の
 (中に n の値を代入) を
 代入することによって

ゴッホの曲線

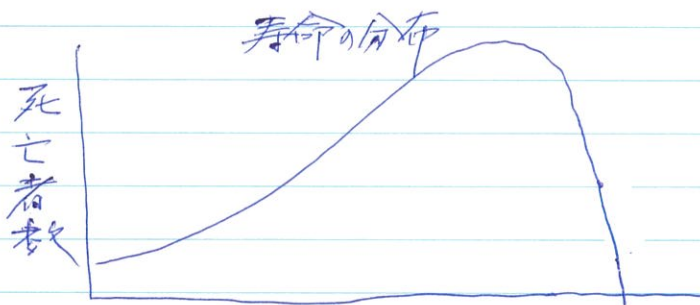
ロジスティック曲線は、社会現象の性格を模擬して予測のために作り出された曲線である。

ゴッホ曲線は、

$$\frac{dy}{dx} = ay \cdot be^{-bx}$$

y の増加率 $\frac{dy}{dx}$ は、 y に比例するプラス効果と、

x によって 指数曲線的に減少するマイナス効果の積により決まる曲線として作り出されたものである。



人間の老化現象を表すために作られたもので、

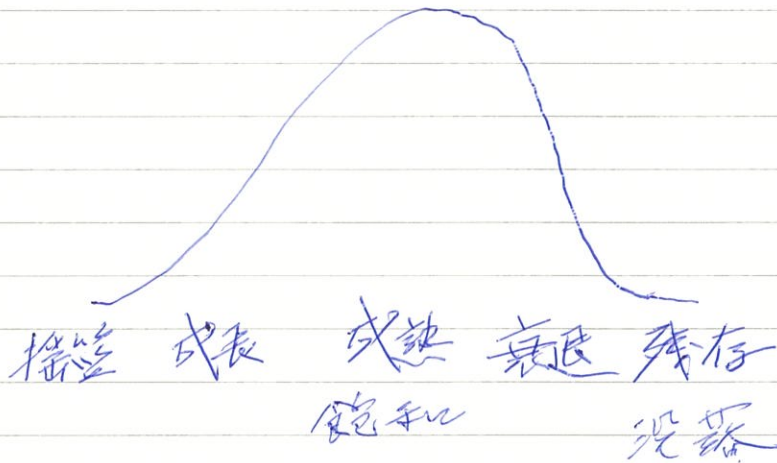
人間の寿命の分布は、左右対象の正規分布ではなくて、

若いときは、死亡者が年齢とともに徐々に増加していくが、

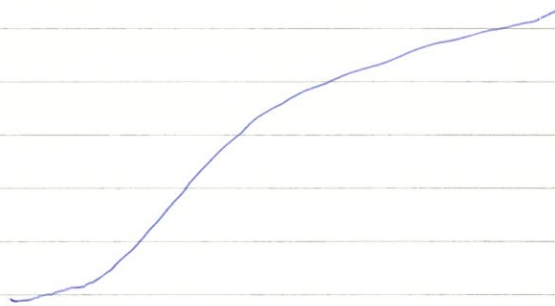
老化が進む年代になると急に死亡者が増えて行く。

10. 成長の1107-1 栄枯盛衰

製品普及



売上



$$y = \frac{b}{1 + Ce^{-ax}}$$

ロジスティック曲線

製品部の増殖

耐久消費財の普及率

$$\frac{dy}{dx} = ay - \frac{a}{b}y^2$$

吳と越

2020.11.24

周の古公^{タンゴ}亶父の代 - 族をひきだし

(岐山)の山もとに移る

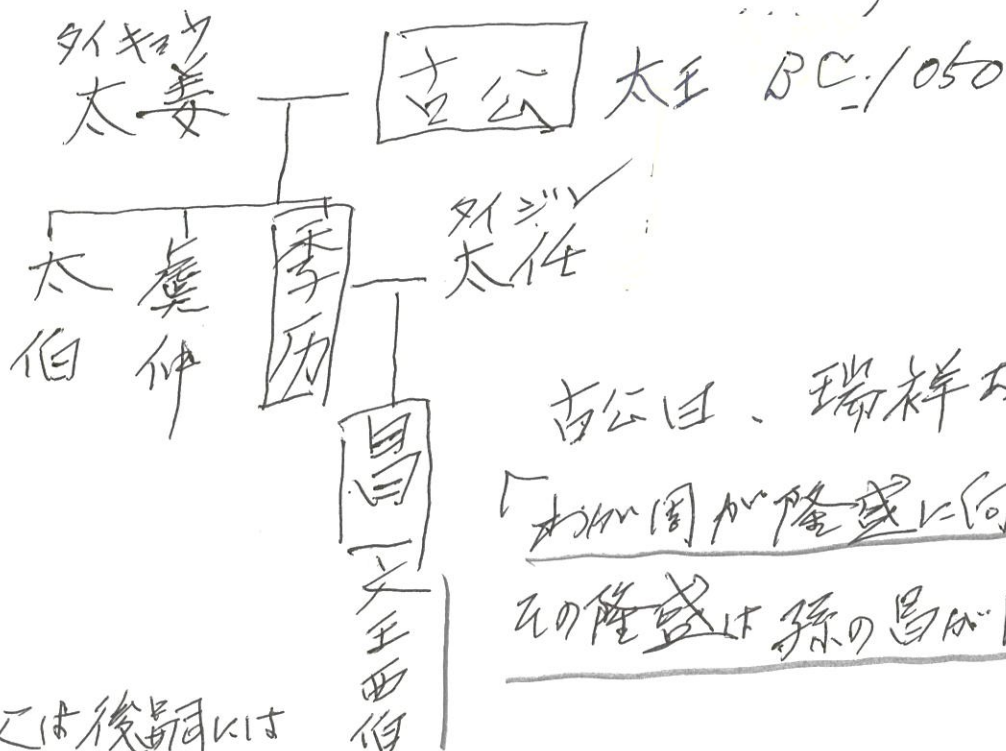
qishan 中江陝西省南西部の山

古公亶父が邠から遷都、周王朝の基礎

(魏と蜀の古武城 互に争い合う)

古公 — 文王 — 武王

文王の妻が付近に都を移す



古公は、瑞祥あり、

「わが国が隆盛に向った。

その隆盛は孫の昌がにわたりあつた。」

父は後嗣に
末子の季历をあて、

は名孫の昌に伝へたといふ。

太伯と虞仲は荆楚の地に去り、蛮族にわたつた。

呉の始祖 古公 太伯 — 闔廬 — 夫差
BC1050 ~ BC496



古公約 550年

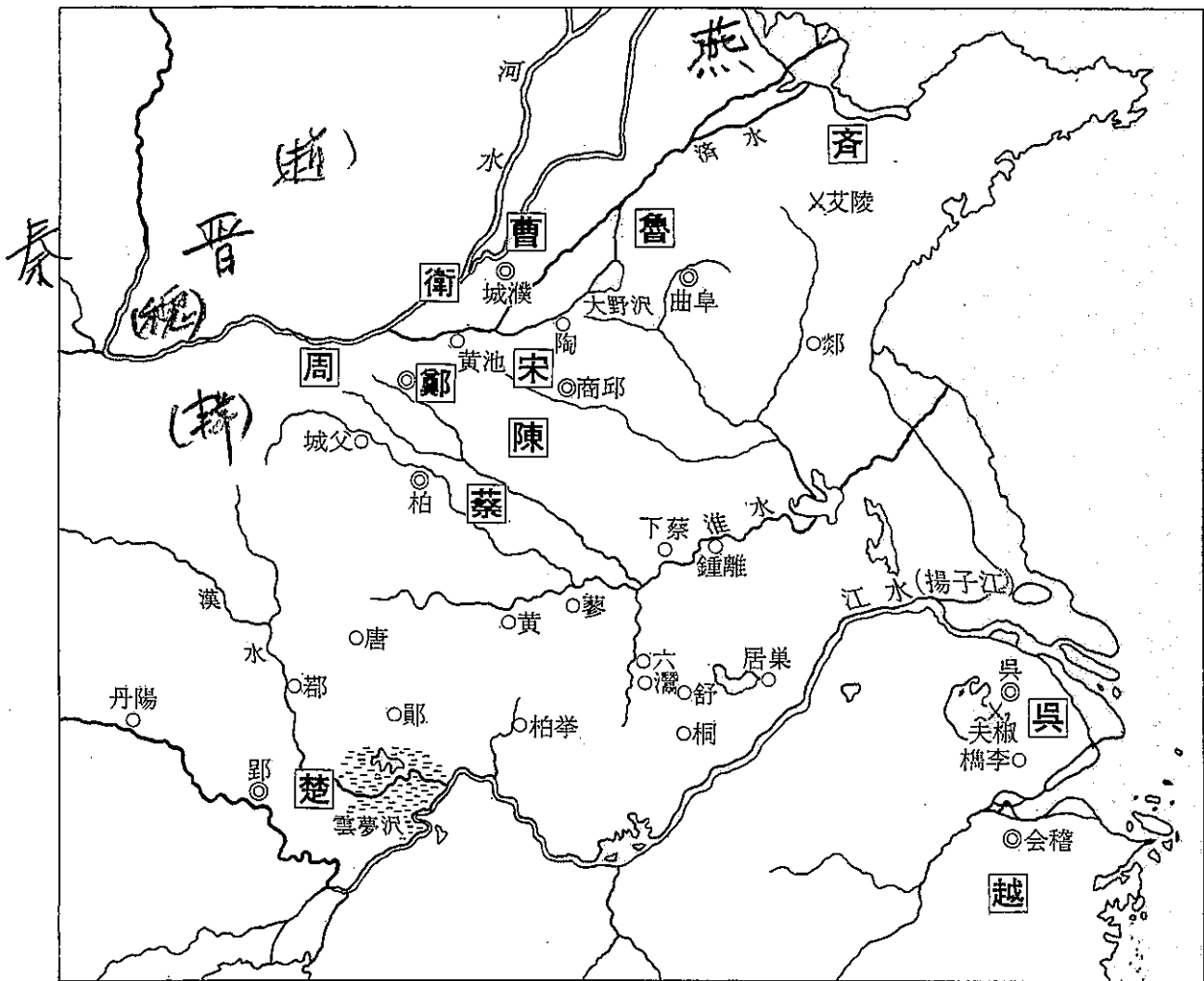


楚と争う

妖艶 夏姫

王暦の年、公子光 (後の闔廬) 軍と幸い 楚に攻め入り
大敗す。 帰国後 3年、楚の臣伍子胥が呉に亡命

吳越抗争時代の中国



吳 闔閭、夫差 一伍子胥
 ~BC496 ~BC473 ~BC481

越 句踐 一范蠡 (陶朱)
 ~BC465

兵降楚。楚封之於舒。

迂直の計

闔廬は即位すると、さつそく伍子胥を外交顧問に任じて、国政の相談相手にした。おりから、楚では大臣伯州犂が誅殺されて、孫の伯嚭が呉に亡命してきた。闔廬はかれを大夫にとりたてた。

王位について三年目、闔廬は伍子胥、伯嚭とともに、みずから軍を率いて楚に攻め入った。まず舒を攻略、楚に投降していたふたりの公子、燭庸と蓋余を殺した。余勢を駆って、楚都の郢まで攻め込もうとしたが、將軍の孫武が制止した。

「人民の疲弊はなはだしく、まだ時機ではありません。お見合わせください」

翌四年にも楚を攻撃、六・濞の両城を占領した。さらに翌年、越を攻めて勝利を収めた。六年、こんどは楚軍が、子常・囊瓦の指揮のもと、呉に侵攻してきた。呉軍はこれを豫章に迎え撃って大勝を収め、勢いに乗じて楚軍を追撃し、居巢をおとして引き揚げた。

それから三年、闔廬は伍子胥と孫武のふたりに相談した。

「以前、貴公らは、郢を攻めるのは時機尚早だと言ったが、いまの考えはどうか」

「楚の將軍子常が貪欲なため、楚の属国、唐と蔡は、恨み骨髓に達しております。楚を徹底的にたたくお考えなら、この二国を味方につけるのが先決です」

闔廬はこの意見に従った。両国と協力のうえ、呉の戦力を総動員して西進し、楚の領内深く、漢水のほとりまで進撃した。楚も軍勢を繰り出してこれを迎え撃つ。両軍は漢水をはさんで対峙した。

このとき、闔廬の弟夫槩が攻撃を進言し、みずから先陣を買って出た。だが、闔廬はこれを許可しなかった。すると、

「王は戦うために軍勢をまかせたはず。戦は勝たねば話にならぬ。なにをためらうことがあるう」
夫槩はこう判断し、配下の五千人を率いて楚軍に急襲をかけた。楚軍は総崩れとなって退却する。ここぞとばかり闔廬は全軍をあげて追撃し、遭遇する楚軍を連戦連破して、ついに楚都郢に迫った。

慎重と決断 吳軍は最初るとき、楚の首都に迫りながら、攻撃を中止した。孫子（孫武）の「迂直の計」に従ったわけである。条件が整っていなかったのだ。ところが三回目ときは、夫槩の「勇み足」を活用し、予定をくりあげ追撃している。慎重と決断、機を見ることの重要性を示唆している。

王闔廬元年、擧伍子胥爲行人而與謀國事。楚誅伯州犂。其孫伯嚭亡奔吳。吳以爲大夫。

三年、吳王闔廬與子胥・伯嚭將兵伐楚、拔舒、殺吳亡將二公子。光謀欲入郢。將軍孫武曰、民勞、未可。待之。四年、伐楚、取六與濞。五年、伐越、敗之。六年、楚使子常・囊瓦伐吳。迎而擊之、大敗楚軍於豫章、取楚之居巢而還。

王闔廬元年、伍子胥を擧げて行人となしてともに国事を謀る。楚、伯州犂を誅す。その孫伯嚭、亡げて吳に奔る。吳もって大夫となす。三年、吳王闔廬、子胥・伯嚭と兵を將いて楚を伐ち、舒を抜き、吳の亡將二公子を殺す。光、謀りて郢に入らんと欲す。將軍孫武曰く、「民勞し、いまだ可ならず。これを待て」。四年、楚を伐ち、六と濞を取る。五年、越を伐ち、これを敗る。六年、楚、子常・囊瓦をして吳を伐たしむ。迎えてこれを撃ち、楚軍を豫章において大いに敗り、楚の居巢を取りて還る。九年、吳王闔廬、伍子胥・孫武に謂いて曰く、「始め子の言に郢いまだ入るべからずと言えり、今、果たしていかん」。一子對えて曰

九年、吳王闔廬謂伍子胥・孫武曰、始子之言郢未可入、今果如何。二子對曰、楚將子常貪、而唐・蔡皆怨之。王必欲大伐、必得唐・蔡。乃可。闔廬從之。悉興師、與唐・蔡西伐楚、至於漢水。楚亦發兵拒吳、夾水陳。吳王闔廬弟夫槩欲戰。闔廬弗許。夫槩曰、王已屬臣兵。兵以利爲上。尙何待焉。遂以其部五千人襲冒楚。楚兵大敗、走。於是吳王遂縱兵追之。比至郢、五戰、楚五敗。

く、「楚の將子常、貪りて唐・蔡みなこれを怨む。王、必ず大いに伐たんと欲せば、必ず唐・蔡を得よ。すなわち可なり」。闔廬これに従う。ことごとく師を興し、唐・蔡と西して楚を伐ち、漢水に至る。楚もまた兵を發して吳を拒ぎ、水を夾んで陳す。吳王闔廬の弟夫槩、戦わんと欲す。闔廬許さず。夫槩曰く、「王すでに臣に兵を属す。兵は利をもつて上となす。な何をか待たん」。ついにその部、五千人をもつて襲いて楚を冒す。楚の兵大いに敗れて、走る。ここにおいて吳王ついに兵を縱つてこれを追う。郢に至る比まで、五たび戦い、楚、五たび敗る。

(吳太伯世家)

十六年目の復讐

——楚への復讐……、伍子胥はついに宿願を果たす。吳に逃れて以来、十六年目のことであった。まだ楚にいたころ、伍子胥は申包胥という男と親しかった。亡命に際して、伍子胥は自分の決意を告げた。

「かならず楚を倒してみせるぞ」

すると、申包胥は答えた。

「いや、おれがかならず守ってみせる」

帝少康之庶子也。封於會稽、以奉守禹之祀。文身斷髮、披草萊而邑焉。

後二十餘世、至於允常。允常之時、

與吳王闔廬戰而相怨伐。允常卒、子

句踐立。是爲越王。

元年、吳王闔廬聞允常死、乃與師

伐越。越王句踐使死士挑戰、三行、

至吳陳、呼而自剄。吳師觀之。越因

襲擊吳師、吳師敗於檣李。射傷吳王

闔廬。

稽に封ぜられ、もって禹の祀を奉守す。身に文し髪を断ち、草萊を披きてここに邑す。後二十余世にして、允常に至る。允常の時、

吳王闔廬と戦いてあい怨み伐つ。允常卒し、子の句踐立つ。これを越王となす。

元年、吳王闔廬、允常死せりと聞き、すなわち師を興し越を伐つ。

越王句踐、死士をして戦を挑み、三行にして、吳の陳に至り、呼び

て自剄せしむ。吳の師これを觀る。越よりて襲いて吳の師を撃つ、

吳の師、檣李に敗る。射て吳王闔廬を傷つく。

(越王句踐世家)

二、句踐と夫差

「句踐がなんじの父を殺せるを忘れんか」

——〈楚世家〉はこう述べている——「越王句踐が吳王に矢創を負わせ、その創がもとで吳王は死んだ。吳は越を憎んで、西の楚への攻撃をやめた」と。吳がいかに對越戦に集中したか、また、楚がいかに息つく思いをしたか、この一条は物語っている。

檣李から撤退した後、闔廬は指に受けた傷がもとで死んだ。臨終の際、かれは太子夫差を新王に立て、

こう言い残した。

「夫差よ、父の仇は句踐だ。よもや忘れはしないだろうな」

「どうして忘れましょう。三年のうちにはかならず討つてみせます」

翌年、夫差は大夫の伯嚭を太宰に任じて国政を担当させた。越への復讐をスローガンに掲げ、軍事訓練を強化した。翌二年、夫差はこれらの精兵を総動員して越に挑戦し、夫椒の戦いに勝利を収めて、父の恨みを晴らしたのだった。

吳王病傷而死。闔廬使立太子夫差、

吳王、傷を病みて死す。闔廬、太子夫差を立てしめ、謂いて曰く、

謂曰、爾而忘句踐殺汝父乎。對曰、

「なんじにして句踐がなんじの父を殺せるを忘れんか」。對えて曰く、

不敢。三年、乃報越。

「あえてせず。三年にして、すなわち越に報いん」。

王夫差元年、以大夫伯嚭爲太宰。

王夫差の元年、大夫伯嚭をもって太宰となす。戰射を習い、常に

習戰射、常以報越爲志。二年、吳王

越に報ゆるをもつて志となす。二年、吳王、精兵を悉してもつて越

悉精兵以伐越、敗之夫椒。報姑蘇也。

を伐ち、これを夫椒に敗る。姑蘇に報ゆるなり。（吳太伯世家）

会稽の恥

句踐の三年（夫差の二年）、吳王夫差が復讐をめざして軍事力強化につとめていると聞いて、越は先制攻撃をかけようとした。

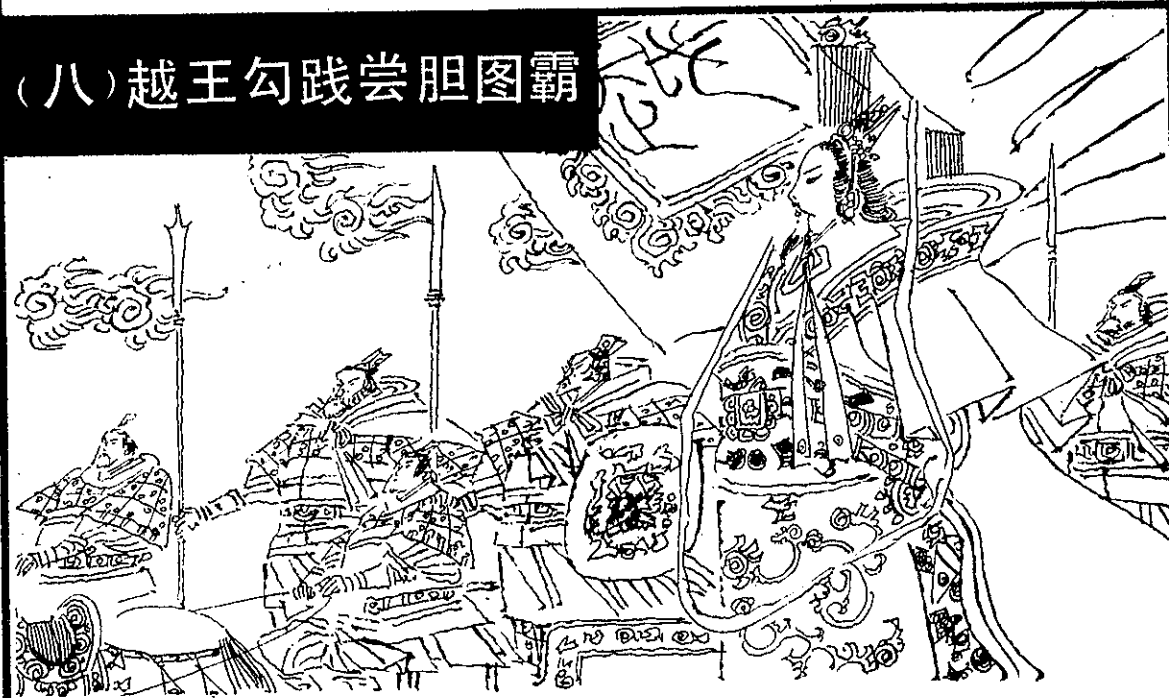
重臣の范蠡が諫めた。

「そもそも戦は自然の理法に背く行為であり、武器は不吉の道具といわれております。それゆえに好んてことをかまえ、争いに身を投ずるものは、天意にさからったかどにより、かならずそのむくいを受けます」

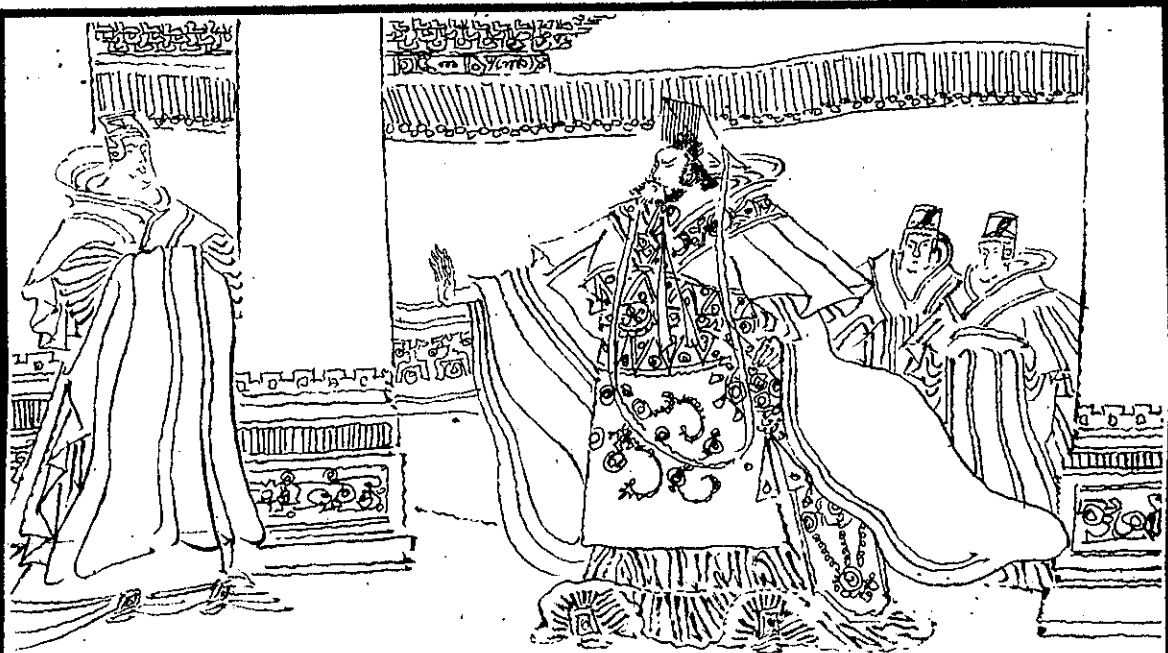


19.战前，越王勾践派三队犯罪的越人来到阵前，令他们将刀搁在脖子上，高喊数声，便一个个自己割下头颅自刎。吴军被这惊险场景看傻了眼。越军趁机猛攻，吴军溃退，阖闾在混战中身受重伤，回师途中死去。

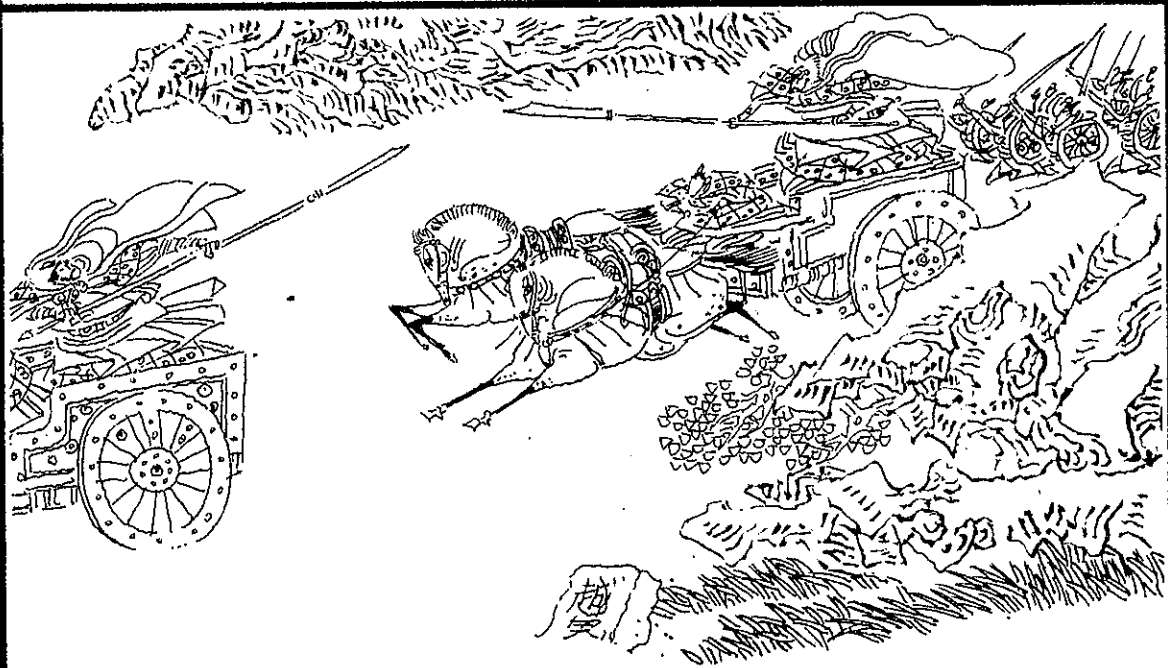
(八)越王勾践尝胆图霸



1.越国王室的始祖，据传是夏禹的后代。春秋后期，楚国扶植越人以牵制吴国，于是越国崛起成为吴国的劲敌。



2. 吴王阖闾伐越时受伤而死，其子夫差继位，发誓报仇。他让一个臣子站立宫门，每当自己进出宫中时，那人就喊道：“夫差，你忘记越国的杀父之仇了吗？”他就答道：“不敢忘记，三年后一定报仇！”



3. 公元前 494 年，夫差率领大军与越军在夫椒（今太湖椒山）交战。吴国军队以复仇相号召，个个勇猛好战，一举击败越军，并一直攻进越境。